

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都橋大学 新管理・教室棟(仮称)建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み係数	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	3.3	
1 音環境					2.2	0.15	-	2.2	
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					1.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能					1.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					1.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					1.0	0.20	-	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境					3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	-	
1 室温					3.0	0.60	-	-	
2 外皮性能					3.0	0.40	-	-	
3 ゾーン別制御性					-	-	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				空調方式(居室:角アネモ、床吹き出し)	5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境					4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用					2.2	0.30	-	-	
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口					-	-	-	-	
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容) トップライト設置	4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策					5.0	0.30	-	-	
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容) 庇(バルコニー)+ロールブラインド	5.0	1.00	-	-	
3.3 照度				教室平均照度:500lx以上	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				照明制御盤・器具等で調整できる昼光センサーによる調光制御、人感運動制御	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策					4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材の積極的採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気					2.3	0.30	-	-	
1 換気量					3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理					4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				建物全体が禁煙、喫煙室なし	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも C(独自加点)	5.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース					-	-	-	-	
3 内装計画				●自然 D(独自基準)	1.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				①②③⑤⑥⑩	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				亜鉛鉄板、一部ガルバリウム鋼板(多湿部)	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備				2.8	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
						3.7	0.30	-	-	3.7
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり			平均階高: 4.36m	4.6	0.30	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=0.14	5.0	0.60	-	-	
						4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.6	0.40	-	-	
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材を痛めず更新・修繕(PF管、LGS下地)	3.0	0.20	-	-	
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材を痛めず更新・修繕(PF管、LGS下地)	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		5.0	0.10	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	●大切	A(全国版準用)	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出										
2 まちなみ・景観への配慮										
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上										
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制										
2 自然エネルギー利用										
3 設備システムの高効率化										
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1 雨水利用システム導入の有無										
2 雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減										
2.2 既存建築躯体等の継続使用										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用										
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用										
2.5 持続可能な森林から産出された木材										
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み										
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
3.2 フロン・ハロンの回避										
1 消火剤										
2 発泡剤(断熱材等)										
3 冷媒										
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
2.2 温熱環境悪化の改善										
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
1 雨水排水負荷低減										
2 汚水処理負荷抑制										
3 交通負荷抑制										
4 廃棄物処理負荷抑制										
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
1 騒音										
2 振動										
3 悪臭										
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制										
1 風害の抑制										
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制										
3.3 光害の抑制										
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策										
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策										

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる